

◆はじめに◆

- 矢高則夫です。おはようございます。実は今日の新聞にも書いてありますが、6年後の7月24日、東京オリンピックが始まります。今日は大事な日です。暑い期間に来日する選手たちが、長野県で練習をしたり、身体を休めたり、そういうこともあるのではないのでしょうか。
- 私は昭和29年の9月、飯田市の生まれです。昭和29年は、飯田長姫高等学校が春の選抜野球大会で優勝したちょうど60年前です。60年経った今でも、選抜大会優勝チーム中、もっとも標高が高い所で練習しているチームです。また、昭和3年の夏の甲子園大会で標高600mの松本市にある松本商業が優勝しました。夏の優勝校の標高の記録でしょう。

◆共感と親近感◆

- さて、標高の話から入りましたが、私は標高1250mのテヘラン、標高1850mのヨハネスブルクの支局を経験しました。皆さん驚かれると思いますが、テヘランはたいへんに雪が多い所で、高い所から撮った町の北側にある山脈の写真を見ると、長野市から見た北アルプスの写真と間違えるほどです。数年前には1mの積雪を記録しました。ヨハネスブルクは一日の気温の差が冬も夏も春も秋もだいたい18℃あります。
- 違うものを見たら驚くのは普通感覚ですが、実際は自分の国にあるもの、自分の故郷のものと同じものが思いもよらない場所にあることが分かったとき、人間は本当に驚きます。また、見かけが違っていても同じところがあるというのを感じたときに、人は驚くし、親近感を持ちます。そういうところが大切です。

◆9.11 テロ当日の経験◆

- その日は秋の国連総会が始まる日で、いつもよりも少し早めに家を出て、郊外から45分くらいかけて通勤電車でニューヨークに行きました。その日に限って終点では降りる人より乗ってくるの方がずっと多い。それも、血相を変えて乗ってきました。
- 何かあったらとキヨスクにあるテレビで見たら、ワールドトレードセンターの2つあるタワーの両方から煙が出ていた。携帯が通じなかったので公衆電話で支局に電話すると「テロだ。すぐに行ってくれ。」と支局長に言われました。
- 地下鉄は動いていましたので、マンハッタンのイーストリーバー沿いの地下鉄に乗ってシティーホール駅で降りました。あいにく9月11日のアメリカ北東部の気圧配置は西高東低で、風が西から東に吹いていたので、ワールドトレードセンター側からの煙と土埃で見えるはずのビルどころか、何も見える状況ではありませんでした。

- おそらくテロに巻き込まれたであろう30後半から40代くらいの煤煙と埃で髪の毛が真っ白になっているサラリーマン風の日本人を呼び止めて聞いても「ビルが大変なことになったのは知っているが、何がどうなったか全く分からない。」と、逆に何が起こったかを問われました。彼はワールドトレードセンターの80何階かにある損害保険会社のニューヨーク駐在員で、旅客機は彼のいたほぼ反対側にぶつかったために、命からがら逃げて来られたらしいことがわかりました。
- 私が申し上げたいのは、その時に私は、ビルが2棟とも崩れ落ちていたというのは全く知らなかったことです。現場の近くにいっても何も見えず、何もわからない。もしかしたら、テレビで見ていた皆さんの方が私より早くビルが倒れていたというのをご存じだったかもしれません。そのような意味でも、9.11は私にとって大変な思い出です。

◆グローバル化と国際化 ～信州の歴史から～ ◆

- 国際化とグローバル化は切り離せないものですが、必ずしも同じではありません。
- 私は、信州は3、4世紀にグローバル化し、その後数百年をかけて国際化してきたのではないかと考えています。
- 今から50、100年前、長野県で最も目立つ人工物は森將軍塚古墳だったでしょう。信州では3、4世紀に千曲川流域に、5世紀には飯田周辺に集中して古墳が出来ました。朝鮮半島南部にも信州と同じような前方後円墳様の古墳があり、これらは森將軍塚古墳が出来てから150、200年経って出来たものです。副葬品も信州と朝鮮半島南部のものは非常によく似ています。
- 6世紀頃の日本は、鉄の輸入元であった朝鮮半島南部で強い勢力は持っていませんでしたので国家とか、政権レベルとは言えないまでも、確実に人々の交流があり、その頃から信州のグローバル化は始まったと言えるのではないのでしょうか。
- 万葉集に755年（教科書にそう書いてある）に防人として埴科郡から筑紫国（つくしのくに）に派遣された神人部子忍男（かんとべのこおしお）の一首が出ています。「ちはやぶる 神の御坂（みさか）に 幣（ぬさ）奉り 斎（いは）ふ命は 母父（おもちち）がため」という首です。白村江（はくすきのえ）の戦いに敗れた後、唐と新羅の軍に備え、大和朝廷、奈良政権を守るために派遣された防人の歌がこういう形で詠まれているのは、北東アジアには明らかに国と国との関係が出来ていたということを示すものです。この頃、我々の住んでいる信州はグローバル化から国際化に進展していったと思うのです。
- 国際化とは文字通り、国と国と国とが接することだと思います。国という概念なしに我々が言う国際化はないと思っていますし、インターナショナル（国家を越える）と言うからには、ナショナル（国家）があるということなのです。

◆世界が大きく変わった年◆

【1840年】

- 1840年の日本は天保11年。水野忠邦の天保の改革が始まる1、2年前です。
- アヘン戦争で香港がイギリス領になり列強の北東アジア進出が始まった年です。
- イギリスがニュージーランドの先住民マオリ人と「マオリ人はビクトリア女王の家来である」という内容の条約を結んだ年です。これをきっかけにイギリスの南太平洋への進出が始まったと言われています。
- アメリカ大統領が公的発言で初めて日本に触れたという記録がある年です。
- 中国は、アヘン戦争から160、170年経った今、身の丈に合った行動をとろうとしています。この背後に、中国にとって屈辱的なアヘン戦争以来の中国への侵略ということがあるのです。

【1968年】

- チェコ事件（プラハの春）があり、ベトナム戦争が激化した年です。
- 特に、ベトナム戦争では1月に始まったテト攻勢を契機にして、アメリカがこの戦争には勝てないことがわかった、といえる契機となった年と言えます。
- その影響を受けて学生運動、反戦運動が起きました。パリ5月革命、ドゴール大統領の退陣につながった学生運動により、世界が大きく変わるきっかけとなりました。

【1985年】

- プラザ合意の年です。大きく円高ドル安に舵を切ることとなりました。
- 現在、1ドル101円ほどですが、1985年の大みそかから年明けにかけて、円は初めて1ドル199円になりました。この流れが、バブルの遠因になったと思っています。
- 原油価格の低下等の影響から、レーガンとゴルバチョフによる米ソ首脳会談が行われた年でもあります。これに端を発し、1989年のマルタサミットで冷戦が終わるというところまで一気に世界が動いたのです。

◆そして現在を規定する2003年◆

- 現在の私たちがいる世界は、2003年に規定されているのではないかと考えています。
- 理由の一つは、イラク戦争が始まった年だということです。ブッシュ大統領は「大量破壊兵器を保持し、アルカイダを支援するイラクは、アメリカのみならず世界の脅威」という理由によりイラク侵攻を開始しました。これは、ある攻撃をされてから対応してきたそれまでのアメリカと違い「危険があれば先手を打つ」という方針の転換でした。しかし、これこそがアメリカ、そして世界の苦難の始まりであると思っています。
- 二つ目に石油、天然ガス、石炭、鉄鉱石等の地下資源の高騰が始まった年であることです。近年、中国のGDPが日本を抜きましたが、中国は経済成長に伴って食糧、エネルギーの確保に危

機感を持っています。尖閣列島や南シナ海の領土問題は、中国が1992年に制定した領海法がもとになっていますが、実際には天然資源の高騰が始まった2003年から、より問題が顕在化したのです。領土問題は中国の食糧・エネルギー問題とみることもできるのです。

- 三つ目に、アメリカ、マサチューセッツ州で、同性の結婚禁止は州の憲法に違反するという判決が出たことです。これで、世界がまた一歩変わり始めました。

◆2003年後の世界◆

- イラク戦争は、開戦から10年たった段階で戦死者が4,500人、直接的戦費160兆円、間接的戦費を含めると600兆円とも言われる費用がかかり、国として大ダメージを受けました。
- また、アメリカはイラク戦争で、ものすごく嫌われる国になってしまった。特に中東ではアメリカは公平でない、ということになった。それを端的に表しているのが、アメリカのお家芸の野球やソフトボール、レスリング等をオリンピック種目から外す動きが出たことです。私は、実はそういうことだと思っています。最初にオリンピックの話をしたのはこういう意図もありました。
- イランがたびたびアラブに攻めてくる中東の歴史の中では、フセインはある意味ではその防波堤の役割を果たしてきた、と言えなくはありません。イスラエルのガザ侵攻、シリアの内戦、イラクの分裂・・・これらの問題はフセイン政権が倒れた、2003年を契機に起き始めたと言ってもいいのではないかと考えています。

◆そして、これから注目しておきたいこと◆

- 今、注目しておきたいのは、アメリカで同性結婚が認められつつあることです。
- 1972年に合衆国議会でERA (Equal Rights Amendment、男女平等憲法修正条項) が可決されましたが、1982年までに成立に必要な全州の4分の3、50州のうち38の州議会の批准を得られず、不成立となった歴史があります。これは、性に関する権利を男女で見てきたからで、男女の間とか、男女の外側を考えないと、人の同権はもはや語れないという意味でしょう。これから、こういう考え方がどんどん進みます。
- アメリカ最高裁は、86年に同性の性行為を禁じたジョージア州憲法を合憲と判断していますが、2003年には86年の判断を17年ぶりに覆し、同性間の性行為を禁じたテキサス州憲法をプライバシーの侵害にあたるとして違憲と判断しました。また、2003年11月、マサチューセッツ州最高裁が同性結婚禁止に違憲判決を出しました。そして、この間いろいろありますが、昨年2013年6月にはアメリカ最高裁が、結婚防衛法は違憲である、という判決を出しました。
- 結婚防衛法は、連邦政府が認める結婚は男女間の結婚に限る、という法ですが、同性の配偶者間の遺産相続税の返還が認められたことにより、連邦政府は同性間の結婚を異性間の結婚と同等に認めるようになった、ということなのです。また、アメリカ軍は、同性の配偶者も、戦没者の葬儀における星条旗授与の権利、住宅手当、単身赴任手当を認めるようになっていきます。

◆グローバル化の裏側と世界の動き◆

- 近年、アメリカ大統領の発言が変わってきています。以前は「アメリカは平等な国、人種・宗教・性別に関わらず差別されない」と言ってきましたが、今はそう言いません。性別という言葉がなくなったのです。例えば、今年1月のオバマ大統領の一般教書演説は「人種や宗教、性的指向に関わらず、すべての人間が威厳を持ち、平等であると信じている」でした。つまり、「性」ではなくて「性的指向」なのです。
- ソチオリンピック開会式にアメリカ大統領、イギリス首相、ドイツ首相、フランス大統領らが出席しなかったのは、実はウクライナ問題よりも、ロシアで同性愛の宣伝を禁止するという法律ができたことに対する先進国の反発、という側面が大きいのです。ソチオリンピック以後の情勢を象徴した出来事でした。
- 日本は、憲法24条に「結婚というのは両性の合意のみによって成り立つ」とあるので、普通に考えれば同性結婚はできません。
- 現実には、日本にも大学に外国人の先生をお招きすると同性の配偶者を連れてくる、などの事例が結構あるとも聞いています。さらに敢えて言うと、6年後の東京オリンピック。アメリカ大統領は、人権に敏感なヒラリークリントンさんかもしれない。日本という国は同性結婚を認めていないということで、開会式に参加してくれるかどうか、ということすら思ってしまったことがあります。
- 日本も徐々に対応が変わってきています。地位協定に基づき在日米軍の配偶者には長期滞在ビザが出ていますが、法務省は同性の配偶者に対しても長期滞在ビザを出すようになりました。野球やサッカー選手、大学教授や学校の先生にも、同じ問題があるはずです。
- 長野県の高校にも40人以上の外国人の先生がいるので、この問題が潜在的にないということはありません。グローバル化、あるいは国際化という波の中で、私たちと全く関係ない話ではなくなってきているのです。

◆終わりに◆

- 県教育委員会の主な施策に「ふるさと教育の推進」がございます。「長野県の豊かな自然や地域の文化に関わる体験的な学びを充実させる。県内の歴史や文化、地域課題を学ぶ拠点を作り、情報提供を推進する。」というものです。
- やはり、これをなくして国際化、グローバル化はありません。むしろ、これを学ぶために外国に行く、外国人と接することがあってもいいくらいだと思っています。このような視点を持つ県教委の姿勢を心強く思います。ご静聴ありがとうございました。

以上

スーパーバイザー 矢高則夫氏 と県教育委員会との意見交換会（要旨）

【櫻井教育委員長】

本当にありがとうございました。グローバル化は自分たちの歴史などしっかりわかっていないとダメじゃないかとあらためて分かった気がします。ローカルの話題が多いわけですが、そういうところにしっかり目を向けてやっていきたい、と決意をしたところです。

【矢高スーパーバイザー】

広い世界の事も見なければいけません。地元と世界、その両方を切り離して考えることはできない、と思っています。

【耳塚職務代理者】

文系理系の区別や学問・知識の領域に拘らない学びの姿勢が重要で、まさに、それを生きたまま演じておられる方と、大変感動して拝聴しました。スーパーグローバルハイスクールの高校生にどんな活動をご提案されているか、お教えいただければありがたいと思います。

【矢高スーパーバイザー】

1970年代は、英語はアメリカの言葉でしたが、21世紀の英語は世界の言葉になりました。世界中の人間が英語を話しているだろうと、アメリカ人は思うようになりました。地域によっても差がありますが、ネイティブという言葉もなくなってきています。このような側面を持つ英語を、これからどのように捉えるか、ということが重要になるでしょう。

【平林委員】

人や物の行き来、それがいろいろ複雑に交錯しながら一体化していくという一つの流れがあると思います。その中でも残っていく文化、尊重しなければいけないものもあります。また、互いに尊重しつつ違いが強調される側面も強まるでしょう。最後にまとめてくださった県の「ふるさと教育の推進」は、我が意を得たりと思いました。

【矢島委員】

興味深く聞かせていただきました。2点質問があります。

一つは、日本とアメリカでは、同性愛者の権利等について差がありますが、両国間でどのような人権意識や環境の違いがあるのでしょうか。もう一つは、学生が留学したがる、そこはどうしたらよいのでしょうか。

【矢高スーパーバイザー】

いずれも重い課題です。アメリカ憲法は、人権を守ることを目的として創られたものだ、という側面が大きいと思います。男女で人を区別すると、守られるべき人権が完全に守られない、ということになってきたのでしょうか。

留学が少ないことは、私も問題だとは思いますが、考えようによってはその必要性がないことは悪いことではないかもしれません。留学というより違う立場の人、違う考えの人、違うところがあるということに気配りのできることが重要なのです。その経験が積み重ねることが、国際化の一步だと思っています。

【生田委員】

お話ありがとうございます。いろんな事象をあげてイメージしやすいようにお話を運んでいただき深く感じるどころがございました。客観的にみることの大切さ、ふるさと教育の大切さを再確認いたしました。郷土愛や郷土への理解が、世界に出る上で大切だと感じました。

【伊藤教育長】

グローバル人材の養成というリーダー的なグローバル人材を思い描きますが、一方で内なる社会のグローバル化に対して異文化理解、異文化協働の力を付けていかなければいけません。社会情勢の変化（TPP、生産人口の減少等）を考えると、日本もこれまでの同質社会からアメリカのような異質社会を意識せざるを得なくなるでしょう。そのような中の異文化コミュニケーションという観点で、高校生へ何らかのサジェスションがあればお願いします。

【矢高スーパーバイザー】

すべてにおいて、両輪という側面があるように、国際化もふるさとの勉強と、国際的な勉強、両方やるのがとても大切だと思います。教育長さんが言われたことは本質に関わる問題で、違う考え方をする人がいる、ということを受け入れることを前提とした態度を養うことが必要です。同じ人間ですが、違う人間、違う人格。人の役に立つだけでなく、自分の目的を達成するためにも、相手の立場に立って考える、ということなんです。

【耳塚職務代理者】

他者の視点を獲得するということは非常に難しいことで、それができるようになったら、いろんな問題が解決するだろうと感じます。ご多忙とは思いますが、今日だけに留まらず、私どもにアドバイスをいただければと思います。今後ともよろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

以上